



2021年(令和3年)
10月号(No. 917)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

久さんの「ぬくもり」 — 深田久彌没後50年に寄せて —

元北海道支部長 新妻 徹

奥秩父の前衛、茅ヶ岳で深田久彌が亡くなってから、今年でちょうど50年になる。名著『日本百名山』で深田は北海道から9座を選んでるが、北の山にも足跡を残し、北の岳人たちとの交流も多い。山行をともにし、その温かい人柄に触れた第9代日本山岳会北海道支部長・新妻徹会員にその想い出を綴ってもらった。

ドラマチックなニペソツ登山

深田久彌氏は日本百名山について、その山の品格、歴史、標高(約1500m以上)の3点を基準に北海道から9座を選定された。昭和34(1959)年に56歳で雌阿寒岳、斜里岳、羅臼岳、旭岳、十勝岳、後方羊蹄山の6座に山行され、翌年は利尻山に、そして、58歳の昭和36年には日高山脈の幌尻岳と大雪山国立公園のトムラウシ山に

登頂された。

昭和35年に帯広エーデルワイス山岳会を創立した滝本幸夫氏は、「ニペソツ山が入っていないので、登っていたらこう」と声を上げ、HBC(北海道放送) 帯広の平野明氏らと動き出したことを北海道新聞社札幌勤務の浅利欣吉氏が察知し、丸善(株)札幌支店の高澤光雄氏に連絡、北海道教育庁(道教委)の私の耳にも入った。



深田久彌氏(左)と坂本直行氏(帯広市・鈴蘭公園にて)

昭和40(1965)年7月から日本国内航空が羽田―帯広間の直通空路を開業、8月12日に帯広市民会館ホールで、講師に深田久彌・坂本直行氏を招いて講演会を開くという企画があった。札幌組は前日にニペソツ山に登頂し、深田パ

目次

久さんの「ぬくもり」	
— 深田久彌没後50年に寄せて —	1
さんけん通信	5
富士山周回の新しいロングトレイル誕生	6
より良い「山の道」を目指して	
— 登山道法研究会の活動 —	8
連載 島の山旅への誘い⑩	9
東西南北	12
活動報告	14
山の自然学研究会	
支部だより	15
宮城支部／信濃支部	
新入会員	16
図書受入報告	16
会務報告	17
ルーム日誌	18
会員異動	18
INFORMATION	18
編集後記	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
★ 新型コロナウイルス感染防止対応のため、当分の間、取扱時間を短縮します。平日13時～20時

ーティの杉沢キャンプに合流するというプランで動いた。私はACH(北大山岳部)2年目の昭和26(1951)年夏、ウペサンケ山に登ってニペソツ山を見て、2013mのその姿に圧倒され、アタックするチャンスを狙っていたので、帯広組に逢うのを楽しみにしていた。昭和29年に北大を卒業し、文部教官助手として北大農学部畜産学科に勤務していたが、昭和33年9月に発令があり、道立名寄農業高校教諭として着任した。翌年に名寄山岳会(NAC)を創立したので、社会人山岳会の運営のノウハウを知りたかった。帯広エーデルワイス山岳会は、創立5年目になっていた。

8月13日のニペソツ山頂は静かで、太陽が西の空に沈む光景は荘



天狗のコルからニペソツ山をカメラに収める久さん

と頭の中で音を出す。私の好きなアメリカ民謡『世界一周』の「日本の国から今日は」の部分で、「エーデルワイスの皆さん今晩は」と替え歌にして、楽しい歌詞を考えながら下山した。久さんは8月14日にニペソツ山に登頂し、「ニペソツ登山の感激」という一文を『H I K E R』（山と溪谷社）昭和42年8月号に書かれた。

巖であった。雲の上に頭を出している山頂に立った私の影が東の白雲に浮かび上がり、その影の周囲に虹が出た。「ブロッケンだ!」と私が叫ぶと、浅利氏が横に来て「ウォー!」と声を出す。ふたりの影の周りに7色の虹の輪ができて、両手を挙げると、その周りにも虹の輪が出現する。ブロッケン・ゲスペンストは知床の羅臼岳や斜里岳の山頂でも見た経験があるが、ニペソツ山のブロッケンの妖怪は神秘的であった。

下山のペースは脚が躍っていた。早く久さんのキャンプ・ファイヤーをアタックしたくて、歌を口ずさみながら心はワクワク、ビールや酒のグラスがちらつき、カチカチ

日本百名山を出した時、私はまだこの山を見ていなかった。ニペソツには申し訳なかったが、その中に入れられなかった。実に立派な山である

ことを、登ってみて初めて知った。杉沢と十六ノ沢の合流点の設営地にテントが張られ、焚火を囲み、ビールにジンギスカン。その珍味に舌鼓を打ちながら楽しく歓談している

最中、突然の夜襲を受けた。背後から歌声を放ちながらパラパラと人が現われた。「何ごとぞ」と思ったのは束の間、それが私の友人たちであることがわかった。私たちの饗宴の潮時を見計らって夜討ちをかけてきたのであった。おまけに彼等は奇襲のための即興の歌まで用意していた。この一団を迎えて焚火のまわりの団欒は、いよいよ勢いを加えた。

久さんはグラスを持って、「坂本直行さんに逢えたし、原野のライオンの迫力は力強いね。私は青白き都会の哺乳類だよ」とユーモラスに話され、「月の砂漠を、はるばると」を歌われた。

「ニペソツ登山は非常にドラマチックだった」と久さんは言われた。「ドラマ」を登山という骨と筋に当たる人間の行為とすれば、「チック」という肉付けで豊かに展開した。「新妻パティの前夜のキャンプ・アタックは予想外の展開で、杉沢に稲妻が走り、豊かな山行となった。人間の予想外の肉付け行為は、計画以上の展開となる。豊かな行動力の北海道支部の活動は

楽しい」と、帰京後、志げ子夫人に話されたという。

・夏のニペ 天狗平の更に奥
・ダケカンバ ニペの風にも耐えて這う

心(新)・哲(徹)

手稲山のイグルー

札幌の西方に1023mの手稲山がある。山頂は平坦で広く、多くのTVアンテナが林立しているが、838mのネオ・パラダイスと呼ぶ九合目から永峰沢への東方の斜面は長く、「壁」と呼ぶ急なスロープもあり、全日本スキー大会の新複合前半戦となる滑降コースとなったこともある。北大恵忠寮の明治45年寮歌『都ぞ弥生』の2番に、「手稲の嶺黄昏こめぬ」と歌われているが、久さんは手稲ネオ・パラを希望され、昭和40年2月12日に、永峰沢からスキーにシールを張って入山された。

前日に札幌の北海道自治会館で横綱大鵬と建国記念日制定について講演され、その後、札幌南方の藻岩山(531m)にてスキーでウォーミングアップをされた。私は前日にAACHの4名で永峰沢に4人用イグルーを作り、久さんの



石狩岳シュナイダー・コースの沢にて。久さんに手を貸す平野氏

昼食用にイグルーの中に雪のブロックで机と椅子を作っておいた。AACH・OBの橋本誠二氏、北大山岳会の石崎貞子さん、道新の浅利氏と入山したのだが、雪質も良く、気持ちの良いツアーとなった。久さんはイグルーに触って感心し、いろいろな質問をされた。

その日のホテルをキャンセルして我が家に案内したが、私の妻(喜恵子)のイグルーの説明を熱心に

聞き、床の間の「無事は貴人」の色紙を見て、「ベースハウス・キーパーの心はスバラシイ」と言われ、「留守は偉人」と乾杯された。その夜の話は、イグルーが中心となった。私は札幌日章中学校で理科を担当していたが、生徒と雪氷研究グループを作り、学校の中庭にイグルーを設営したところ、道新の種村正義記者の取材を受けた。浅利氏が考えた「新妻先生に聞いてみましょ

う」というタイトルが付いた記事のスクラップを囲みながら、雪の結晶の話は続いた。「雪は天から送られた手紙」と北大の中谷宇吉郎先生は言われた。ゆっくり降りてくる雪を黒い紙で受け、息を止めて観察する。その結晶の樹状突起が美しい。「中谷先生の科学館は、私の郷里の石川県加賀市にありますよ。そこから白山が見えます

よ」と、久さんは言われる。「行かざるべけんや!」。滝本氏の「ニベソツ登山に來道されませんか」との誘いに對し投函された久さんの本音を私が口真似すると、久さんは笑顔でうなずかれた。

・ネオパラの雪小屋で知る造形美イグルー嬉し 友のぬくもり
・山の茜を顧みて一つの山を終わりに

何の俘のわが心 早も急かる
次の山

・山の黄昏横に観て一つの杯を終わりに
何の俘のわが片手 早も急かる
次の酒

心哲

北海道支部の再出発

大正12(1923)年に北海道庁に北海道山岳会が設立され、昭和17(1942)年4月に大日本体育会が発足、翌年5月に北海道支部(現在の北海道体育協会)が誕生、その組織の中に行軍山岳部が加えられた歴史がある。同年7月15日付で日本山岳会北海道支部が設立された。部会長は村上善彦(札幌市教育課長、札幌健歩協会長)、部

会副長は伊藤秀五郎。

昭和20(1945)年の終戦により大日本体育会は部会制を解散し、運動種目別の全国組織の必要性から北海道山岳連盟を結成した。しかし、JACより北海道支部設立の要請が再三あり、道岳連加盟団体と道内在住のJAC会員の同意を得て、昭和24(1949)年3月6日に日本山岳会北海道支部の発会式を挙行した。支部長は村上善彦、委員は橋本誠二、山崎英雄、一原有徳、中野征紀、可知邦成ら12名であったが、同年9月3日の札幌西本願寺における支部総会で支部長に山崎春雄、委員長に村上善彦を選出し、北大山の会によって運営された。横有恒、松方三郎、三田幸夫氏らが來道される機会に会合を催し、JAC会員相互の懇親は継続されていた。

昭和40年に深田久彌氏がニベソツ登山に來道されたときは、JAC副会長として北海道支部の充実と再出発を強く要望され、新妻、高澤、浅利、平野の4名を「4日」と呼び、テントのペグが4本で安定するように、「ヘッドは新妻君、ハートは多くの人に配本している高澤君、右手は新聞記者の浅利君、そ



北の山を存分に楽しむ久さん(石狩岳の尾根にて)

して、左手は器用なHBCの平野君」と言われた。私は昭和6(1931)年生まれの末年、そして、高澤、浅利、平野と続く3名は昭和7・8・9年生まれであり、気持ち良く握手し、乾杯した。

北海道開基100年記念の年に当たる昭和43(1968)年、年齢制限のない札幌山の会(ACS)を5月20日に創立し、会員数100名を目途に私が理事長に就任、目

標を「多様性と調和」にした。実は5月20日は、13年前の私と福島喜恵子さんとの結婚記念

日で、ルームのないうACSの集会は、第3週の水曜日の夜に「三水会(山酔会)」と名付けて集まった。ACSは団体会員としてJACに入会し、創立記念山行を6月23日、富良野岳で実施した。会員21名と久さんが参加され、山頂で100番のバッジを贈呈した。浅利氏夫人(精子さん)は、4日におそろいのカッターシャツを作ってくれたが、4人に向かって笑顔で「変な人たち」と言われた。

良き師良き友に恵まれて

昭和46(1971)年3月21日11時半ごろ、山梨県韮崎市の茅ヶ岳(1703m)に岳友7名と山行し、頂上直下の女岩のコルで倒れ、そ

のまま脳溢血で他界されてしまった68歳の久さん……。その7年後、志げ子夫人も交通事故で亡くなられた。

原稿を書き上げて、ほっとした気持ちで山行する久さんを代筆して、志げ子夫人からの手紙は、北海道のアイヌ語地名について確認されるが多かった。「北海道の地名は、ルビが難しいですね」と書かれていたが内容は正確で、私の妻にも見せて返信したものだ。

久さんの供養にと昭和53(1978)年に句集をまとめ、3月の命日を意識されて『丸山句集』を卯辰山文庫から上梓された。その句集を次男の沢二氏宅に届けようとしたところ、3月25日早朝、横断歩道でオートバイに跳ねられて頭を強打、意識不明となつて経堂の病院に搬送されたが、久さんのもとへと旅立たれた。

そして、浅利夫妻も平野氏も他界され、私の妻も久さんと楽しそうに会食している夢を見るようになった。一方、高澤氏は『深田久弥と北海道の山』を平成29(2017)年11月20日に白山書房から、滝本氏は『私の中の深田久弥』を平成27年10月10日に柏艚舎から上梓

された。

私は9月9日に卒寿を迎えたが、久さんのぬくもりは、国連のSDGs(持続可能な開発目標)「パートナーシップで目標を達成しよう」のハートそのものである。

ところで、「心哲」という号は、久さんからニペソツ山でいただいたものである。

・菊の日に卒寿を祝う山の友
・コロナ風 良き師良き友JAC

「晩餐会ウィーク」でウェビナーを開催

残念ながら本年の年次晩餐会は中止と決まりましたが、予定していた12月4日(土)前後の1週間程度を「晩餐会ウィーク」とし、ウェビナー(ウェブによるセミナー)を開催いたします。

プログラムは10月下旬以降に、本会のホームページやメルマガにてお知らせします。会員外にもご視聴いただけるようにいたしますので、ぜひ多くの方々をお誘い合わせの上、ご参加ください。

日本山岳会会長 古野 淳
総務委員会

さんけん通信

山小屋の研究とその保存再生

山岳研究所運営委員会 土本俊和

日本山岳会には、様々な分野で才能を発揮し活躍しているタレントがそろっているが、とりわけ山岳研究所運営委員会には、高い専門性を持った委員が多く在籍している。今回は信州大学教授の土本俊和会員に、山小屋研究の一端について綴っていただいた。

〈編集部〉

＊

高校生のときに山に登っていた。大学生のときにラグビーを始め、建築を専攻した。現在、信州大学



再施工後の徳本峠小屋(手前が休憩棟、奥が宿泊棟)
2010年7月10日撮影

で建築の教員をしている。信州に赴任してからも山から離れていたが、山岳科学に取り組むグループに出会ったのをきっかけに、山岳建築の研究に取り組んだ。

高校生のときに一緒に山に登っていた中山茂樹君と再会したのは、そのころであった。理事であった彼の力を得て、大学山岳部にゆかりのある山小屋を日本山岳会の後援で研究することができた。その理想は、日本全国を対象に山小屋をことごとく調査することであった。しかし、力及ばず、調査できたのは、今のところ京都大学の笹ヶ峰ヒュッテ(妙高山、火打山の麓)、成蹊大学の虹芝寮(谷川岳の麓)、成城大学の大極荘(柵池)、早稲田大学の神ノ田圃ヒュッテ(柵池)、東京大学の乗鞍寮(乗鞍岳の中腹)、玉川大学の武尊小舎(群馬県沼田市)などである。私の専門は建築史なので、山小屋の中でも古い山小屋に興味があり、その保存再生に関心を寄せていたのである。

民間の山小屋にも取り組んだ。北アルプスにある徳本峠小屋が最初であった。建物すべてを新しくする計画があると聞いていた。所有者である高橋徳美さんにお会いしたときに、今ある建物を保存再生するという手法を説明した。手法を紹介するための話し合いであったが、私が担当することになり、竣工まで見守ることができた。最も古い部分を休憩棟として保存し、隣に宿泊棟(厨房付き)とトイレ棟を新たに建てた。休憩棟は国登録有形文化財になった。宿泊棟は日本建築学会の北陸建築文化賞を受けた。そして、竣工までの一連の工事を「再施工」と名付けた。

山小屋は道路交通網、電気網、ガス網、上下水道網から切り離された環境にある。山岳のほか砂漠、サバンナ、離島、極北など、諸々のアメニティから切り離された環境を「オフ・グリッド」と呼ぶことができる。山小屋はオフ・グリッドに立つ建築である。対して道路交通網、電気網、ガス網、上下水道網が整った環境を「グリッド」と呼ぶことができる。山小屋に取り組むなかで、街に山小屋を建てるという妄想に取り憑かれた。このこ

とは、既設の施設が整っているグリッドの中に施設から切り離された領域を設けて、そこに自己完結した建築を造ることを意味する。つまり、このことは、グリッドの中にオフ・グリッドを埋め込むことを意味する。この考え方を日本建築学会で発表した。

その翌年の2019年秋、台風19号で千曲川が決壊し、大洪水が土地と建物を呑み込んでいった。災害ボランティアに参加しつつ、災害の実態と、罹災した土地と建物を理解しようとした。現在、この大洪水で罹災した建物の保存再生に取り組んでいる。

大災害に遭うと、土地と建物が道路交通網、電気網、ガス網、上下水道網から切り離されてしまう。大災害を予想して、これらのアメニティから切り離された領域を設けておいて、その中で自立できる建物を建てておくことが有効だろう、と考えている。山小屋を含む山岳建築には、大災害に備えるためにも、大災害から再び立ち上がるためにも、有効な知恵が蓄積されており、今も新しい知恵が模索されている、と考えている。

(信州大学工学部建築学科教授)

NEW LONGTRAIL

富士山周回の新しいロングトレイル誕生

太田安彦

概要と各セクションの魅力

富士山ロングトレイル（以下FLT）は本年8月8日、「山の日」から富士山を楽しむための新たなコンテンツとして生まれしました。富士山を取り囲む山々の登山道と、富士山の歴史を感じられるロード区間をつないだ総距離は約170 km。富士山ファンの登山経験者や、旅好きのハイカーに富士山と対峙する山旅を楽しんでいただきたいと思います。日帰り登山から宿泊施設を利用した縦走まで、ご自身のレベルに合わせて富士山の自然を満喫してください。

FLTは、富士山を中心とした東西南北4つのエリアから構成されています。富士山の眺めをはじめ歴史や文化、自生する植物も各エリアにより異なるため、様々な角度から富士山の魅力を感じることができます。各エリアの中で提案するモデルコースは、1年を通して登山の初心者から上級者まで楽しめる内容です。FLTを歩いて、富士山をもっと深く、もっと

広く楽しんでください。

忍野・山中湖エリア EAST

四季折々、表情豊かな富士山の姿と環境を眺望できるエリアー

富士山の東側に位置し、鹿留山や杓子山、石割山、高座山、三國山など、コース上に14のピークを有し、表情豊かな富士山の姿を眺望できるエリアです。夏の登山シーズンには、山小屋の灯りや登山者のライトが放つ幻想的な光の列を、1月から2月にかけては、冬の風物詩である「ダイヤモンド富士」を見ることができます。

そのほかにも、悪天候を知らせる吊るし雲（レンズ雲）と富士山の見事なコラボレーションや、朝日に染まる美しい「赤富士」や「紅富士」など、タイミングを合わせてでも見たいロケーションが盛りだくさんです。1年を通して楽しんでいただける、FLTならではの景観を堪能してください。

愛鷹・富士南麓エリア SOUTH



越前岳から勢子辻に下るトレイルから見た富士山南面

唯一の火山や稀少な植物、名作写真の舞台を歩くエリアー

富士山の南側は、LTコース上で唯一の火山である愛鷹山塊を有するエリアとなっており、その歴史は富士山より古く、約40万年前に噴火を始めたと言われている第4期の成層火山です。「日本二百名山」である愛鷹山からは、富士山の最大噴火口「宝永火口」を正面に据えたダイナミックな展望が広がり、火山としての富士山が持つ迫力を感じてもらえます。5月ごろには固有種である貴重な「アシタカツツジ」が見られるほか、美しい駿河湾の眺望もまた格別です。最高峰である越前岳（1504 m）付



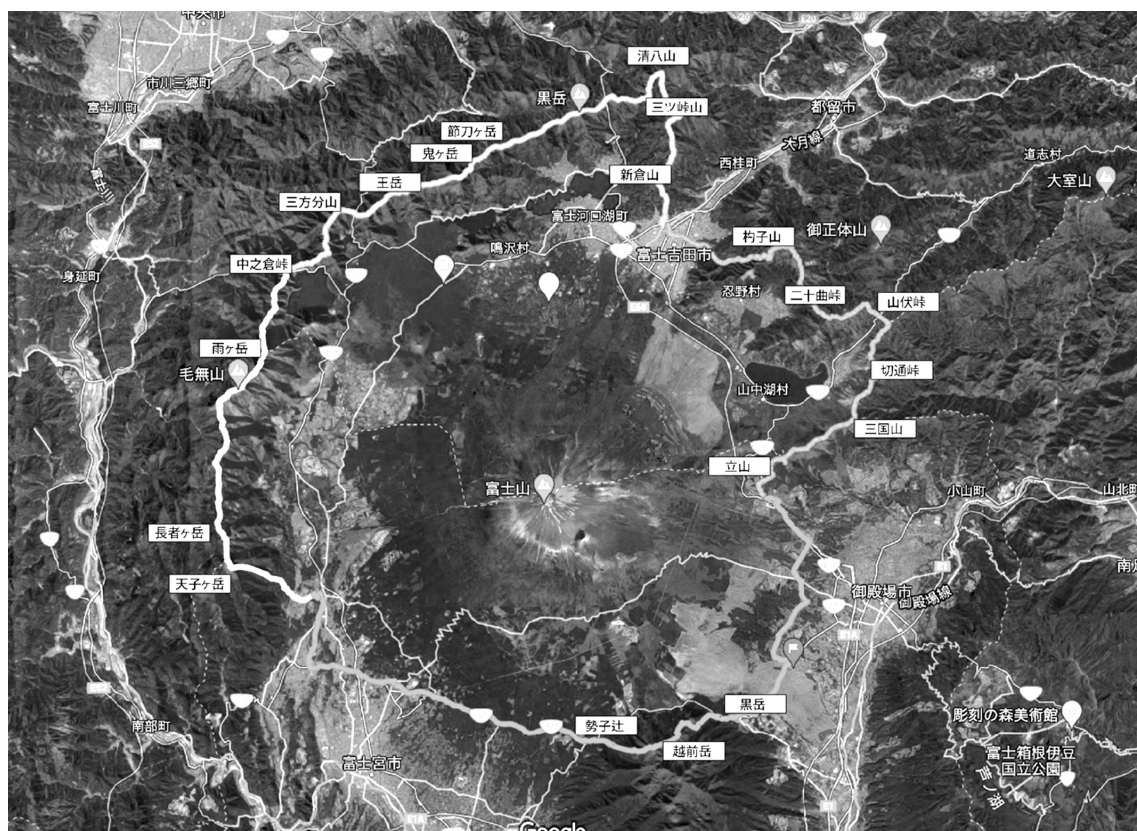
千円札裏の図柄と同じ、中之倉峠から見た本栖湖と富士山北西面

近から見る富士山の大パノラマは、生涯を富士山の撮影に捧げた写真家・岡田紅陽の、50銭札の題材となった写真が撮影された場所として知られています。

天子山地エリア WEST

FLTの最高峰がそびえ、歴史的背景が点在するエリアー

富士山の西側に位置する天子山地は、いわれは不明ですが、国土地理院地図では「天子山地」と表記されており、戦国時代以降の城を思わせるような歴史ロマンを感じさせる山域です。成り立ちについては諸説あり、プレート運動の影響や衝突による隆起などに起因す



ると推定されています。最高峰である毛無山(1946m)は、LT

コース上の最高峰でもあり、富士山の大崩落地「大沢崩れ」を真正面から眺望できる、迫力満点のエリアです。また、毛無山付近には戦国時代における武田信玄の隠し金山の存在が知られており、随所にその痕跡を見ることができます。

御坂・三ツ峠エリア NORTH

―富士山と湖の絶景、最大のピーク数と総距離を誇るエリア―

富士山の北西に位置する御坂山地と北側に位置する三ツ峠エリアは、本栖湖の中の倉峠から下吉田まで総距離35km以上に及ぶロングコースとなっており、4つのエリアの中では最も多い23のピークを有しています。稜線には、富士山はもちろんのこと八ヶ岳や南アルプス、北アルプスなどを見られるポイントが盛りだくさんです。稜線の眼下には富士五湖のうち4つの湖(本栖湖・精進湖・西湖・河口湖)があり、FLTの醍醐味である富士山と湖の絶景を満喫できるほか、広大な青木ヶ原樹海や寄生火山群も一望できることが魅力です。富士山の裾野が美しく見えることで有名な三ツ峠エリアでは、豊かな山野草や、甲斐の国への旧

道や峠など、歴史的な側面もお楽しみください。

FLTが目指すものと今後の展開

私たちは、世界中のハイカーや旅行者にFLTを利用していただきたいと考えております。安心・安全な環境で利用者にトレイル歩きをお楽しみいただくためには、地元地域や官民との連携が欠かせません。それらを意識して運営に取り組んでまいります。

今後、一般参加ができるツアーやコミュニティを作り、イベントを開催していきたいと考えています。富士山に何度も訪れていただき、富士山の魅力を知ってもらいたいと思っています。同時に安全管理も行なっていきます。最新の情報発信や登山道整備を中心に、スキルアップ・セミナーも企画できれば、と思っています。さらに長期的には、統一された案内板やガイドブックの制作など、国内外から多くの方々が富士山を楽しんでもらえるように活動していきたいと考えています。

(富士山ロングトレイル運営委員会 代表理事)

PROPOSAL

より良い「山の道」を目指して

— 登山道法研究会の活動 —

登山道法研究会代表 上 幸雄

登山道の勉強会を山仲間の有志で始めたのが、2018年の秋だった。それから半年後、本会報「山の2019年4月号に、涸沢ヒュッテの山口孝さんが「道直しは小屋番の生きがいであり楽しみ」の論考を発表した。利用するばかりで道直しとは無縁の私たちは、その論考で登山道のイロハを教えていただいた。書店の山岳書のコーナーに行っても、登山道をテーマにした本は皆無だったので、大変参考になった。それに、山口さんの「登山道は山小屋の生命線だ」「小屋番の仕事のメインは道直しだ」との発言は、ご自身が当事者であるだけに強い説得力があった。

とはいえ、登山道整備を山小屋

に任せっきりでいいのか、との疑問もあった。当然規模の大きな登山道の整備や修復、維持管理には大きな予算が必要だし、管理責任を明確にする必要がある。利用する側も一定の責任と役割を担うべきではないか、との考えは変わらな。そのためには将来的に「登山道法」といった形で、法令の整備が必要ではないかと思われた。

そこで、2019年9月に「登山道法研究会」という名で組織を立ち上げて、登山道の現況把握、課題整理、今後の目指すべき方向の検討、車道や遊歩道での法整備状況、外国の事例などについてレポートを書き、討議を重ねた。途中、コロナ禍による中断はあったが、今年8月に報告書『これでいいのか登山道—よりよい「山の道」をめざして—』を刊行した。販売が目的ではないので実費頒布とし、活動にご賛同いただける方からのご協力も仰ぐこととした。刊行からほぼ1ヶ月、幸い多くの方からご賛

同をいただき今、次の活動方法の検討を始めているところである。

法整備の意義や必要性、社会的効用、入山者にとつての個人的効用、さらには、登山道やその付帯設備の評価や幅広い利用方策など、検討すべき課題は少なくない。登山は、遭難対策も含め自己責任を原則とするなかで、登山者や自然愛好家、山で仕事をする人などには、登山道を利用することについては、その維持管理になんらかの責任を負う一方、管理主体を明確にし、登山道や付帯設備の計画的整備、それら設備の損壊や事故発生時の対応責任、費用負担などが考えられる。

部屋の本棚に長年捨てられずにいた『山と溪谷』誌がある。背表紙に特集「道のない山」とあり、1975年10月の発行だ。その巻頭文に滝本幸夫氏（日本山岳会北海道支部）が「道があるから山に登るのか、そうではあるまい。道がなくとも人は山に登る。山へ登る人がいるから自然と道はできる。登山道は必ずできるが、それができたら楽しくないか」というと、そうではなくて、そのプロセスと保護が大事なのだ」と書いている。



豪雨被害後の高尾山の登山道(2019年7月)

私自身、若いころに道のない知床や奥会津で遊んだ経験から、いたく納得がいった。登山道の議論は今、始まったばかりである。それがどのような方向をとるかは、山の自然保護と適正利用の一環として考慮されることになるだろう。『これでいいのか登山道』の入手を希望する方は、左記にお申し込みください。頒布価格は1部に付き1000円+送料370円です。振込先は送付時にお伝えします。〒247-0013 横浜市栄区上郷町262-32-4401 君塚桂子方「登山道法研究会」事務局 K.Kimizukawallcreeper-kimikei @zc4-so-net.ne.jp

連載■島の山旅への誘い⑩

対馬

―城山、白嶽、有明山、竜良山、矢立山など

対馬の山概説

対馬は九州北方の玄界灘沖に位置する島で、長崎県に属している。博多港からの距離は航路で132 kmなのに対し、北端から韓国までの直線距離はわずか49.5 kmで、福岡より釜山に近い「国境の島」である。南北82 km、東西18 km、面積は

は900 kmを超える。平成16年に島内6町が合併し、長崎県下では最大面積の「対馬市」となった。

島土の約9割が山地であり、山岳崇拜の聖地として立ち入りや伐採が禁じられていたことで、各地に原生林が多く残り、ツシマヤマネコなどの貴重な動植物が生息している。大陸系植物と日本系植物が混生し、極めて自然度の高い照葉樹林が分布し、たおやかな山容から急峻な岩肌となって海に沈み込む、太古から変わらぬ風景が見られる。地質は大部分が海底で形成された堆積岩の隆起で、表土は薄く耕作地は少ない。白嶽や城山は石英斑岩が露出しており、有明山や竜良山は熱変成作用を受けたホルンフェルス帯の一部である。

対馬の山岳には歴史、植生、地質の面でもそれぞれ個性があり、登山者の興味に応じて四季折々、多様な表情を見せてくれるだろう。



鳥帽子岳展望所から見た浅茅湾のリアス海岸

主な山の登山ガイド

▲城山(金田城跡)―歴史と展望の山

金田城は、大和朝廷が唐・新羅の連合軍と戦った「白村江の戦い」に敗れた後、侵略に備え667年に浅茅湾の南岸に突き出た岩峰、城山(273 m)に築いた古代山城である。烽火台と防人が配置され、水平線の先の異国と対峙していた。時が過ぎ忘れ去られていた城山は、日露戦争前、再び要塞として巨大な砲台が据え付けられた。1350年前に防人が守った古代山城と、100年前に旧日本帝国陸軍が建設した近代要塞が並存する城山は国の特別史跡に指定され、今も国境の島の特異な歴史を語り続けている。

県道24号を浅茅湾南部の箕形浦へ向かう途中から林道に入り、約2 km進むと数台分の駐車スペースがあり登山口となる。登山道は旧日本陸軍の軍道をそのまま利用し整備されている。山頂部を囲むように築かれた古代山城・金田城の石垣の城壁を明治の軍道は横断し、いったん城壁外に出てはまた入るジグザグの歩きやすい道となっている。頂上直下の砲台跡からは細くて急な尾根道を登ると、浅茅湾



城山山頂から見下ろした浅茅湾の複雑な海岸線

の美しいリアス海岸、多島海の景観が広がる山頂に着く。眼下の浅茅湾の部分は、城山の付け根にある箕形浦を起点としたシーカヤックの人気エリアにもなっている(登山口から山頂まで約1時間)。

▲白嶽―石英斑岩の霊峰

白嶽(518 m)は対馬を代表する霊峰であり、『九州百名山』(山と溪谷社)に対馬で唯一選定されている名山である。かつては「願掛け」のために登られていた。石英斑岩の双耳峰は、白く輝く特徴ある姿で、古くから航海の目印として親しまれてきた。

低山ながら海抜わずか50 mからスタートし、後半は急登が続き、最



万葉集に詠われた、広い草原の有明山山頂

清水山からいったん少し下り、成相山と有明山を結ぶ尾根の鞍部へ登る。南西に雑木林の尾根沿いに登ると空が開け、ススキの草原に出ると山頂は近い(上り2・5時間、下り2時間)。

▲**竜良山**―天道信仰の縄文の森
南部の竜良山(558m)は、縄文時代に西日本一帯に広がっていたであろう太古の森を今に伝えている。国内最大級の自然度の高い極相に達した老齢の照葉樹林が約90haにわたって広がり、国の天然記念物に指定されている。山そのものが対馬独自の天道信仰の聖地で、禁忌の地であったため緩傾斜地ながら手付かずの森が残った。



天然記念物ヒトツバタゴが咲く鰐浦の韓国展望所(5月)

これだけまとまった面積の照葉樹林を手軽に楽しめる山は、国内でも非常に稀な存在ではあるが、近年は盗掘や自然災害の影響で変貌が危惧されている。

内山地区を瀬川上流の鮎もどし自然公園へ入り、竜良山麓自然公園センターの駐車場に車を止める。林道を600mほど進むと登山口がある。いきなりスタジイやイスノキの鬱蒼とした巨木の森となり、「オソロシドコロ」と呼ばれる祭祀場の近くを進む。下山時は道迷いしやすいことを意識しながら、竜良山に向かって南方向に進もう。竜良山と木斛山を東西に結ぶ尾根のコルには、いったん西に折れな

から登る。東に向かう尾根沿いには無数の岩が露出しており、踏み跡は不明瞭になる。山頂からは対馬最高峰の矢立山が望め、眼下には原始林と瀬川の谷が広がる(登山口から往復4時間)。

▲**矢立山**―対馬の最高峰

矢立山は対馬の最高峰(648m)であり、かつては竜良山と同じく神山であったが、現在は四方に植林・伐採跡が迫り、原始林の面影は感じられない。三等三角点がある山頂付近は大規模に伐採され、気象条件に恵まれれば白嶽や北部の山々、対馬海峡の東・西水道の水平線などを一望できる。

竜良山と同じ内山地区からさらに林道に入ると、矢立山と大鳥毛山を結ぶ主稜線の鞍部、標高500mまで車で行くことができる。この鞍部から広い尾根伝いに北西に登ると、片道0・8km、標高差はわずか150mほどで山頂に達する。

島の最高峰となると、最初に登山対象となるのが常であるが、植林の多さや歩行距離の短さなどから、ほかの個性的な山々に一步遅れを取っているのが実情だろう(登山口から往復40分)。

山旅のメモ

対馬へのアクセスは、空路は福岡空港と長崎空港から対馬空港へ。海路は博多港から厳原港へジェットfoilとフェリーが、比田勝港へはフェリーが運航している。なお、国際航路として釜山港から比田勝港と厳原港へ7社が運航していたが、日韓関係の悪化と新型コロナウイルスの影響により2021年7月時点では全社運休となっており、かつて韓国人観光客でにぎわった光景は、今はない。

島内の移動は、路線バスの数は少なく不便で、タクシーかレンタカーの利用となる。効率良く回るには、登山ツアーを利用するのも便利だ。

なお、登山前に対馬観光物産協会が運営する「観光情報館ふれあい処つしま」(対馬市厳原町今屋敷672番地1、TEL 0920-521566)で情報を得ることをお勧めする。『対馬トレッキングガイドブック』など詳しい資料がそろっており、登山に詳しいスタッフも駐在している。協力Ⅱ一般社団法人対馬観光物産協会

(福岡支部事務局長)

東 西 南 北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします）

えつ、北アルプスの 終焉・親不知？

遠藤俊一

会報「山」2021年8月号に我が越後支部会員の靄本修一氏による「アルプスと海をつなぐ梅海新道」開通50周年の軌跡をたどり未来へ」が掲載されました。開通50周年に当たり、郷土の先人の成し遂げた偉大な事業に改めて敬意を表します。

小野健氏の壮大な構想と実行力により、親不知から朝日岳までの登山道が開通したことは靄本氏の本文に詳しいが、残念なのは、この寄稿を紹介した編集部のリード文です。

そのリード文の冒頭に「白馬岳から朝日岳を経て北へ、北アルプスの終焉・親不知に至る一本の道がある」と記しています。果たして、親不知は「北アルプスの終焉」

なのだろうか。「終焉」という表現に大きな違和感を覚えました。

ウォルター・ウェストン師の著

書『日本アルプスの登山と探検』に

よれば、ウェストン師は1845

年の夏、中部日本アルプスを北か

ら南まで縦断したいと上野から信

越本線で直江津へ、そこから船で

親不知のある糸魚川にきています。

そして親不知の岩壁を見て、「アル

プスの起点をなしているのは、

実にこの花崗岩の絶壁で、山脈は

約百マイル南の濃尾平野まで行っ

て、初めて低くなる。」と親不知の

絶壁について記しています（あか

ね書房発行『日本山岳名著全集』①

『日本アルプスの登山と探検』（山

崎安治・青木枝朗訳）より。その

原文は、

It is these granite cliffs that form the starting-point of the range of the Alps ……

小野健氏が生前、「海のウェス

トン祭」の会場・親不知で、海から立ち上がる絶壁をウォルター・ウェストン師が『日本アルプスの登山と探検』の中で「起点」と記していることを紹介し、「ここは日本アルプスのスターティング・ポイントだ」と誇らしげにいつも語っておられた姿が印象に残っています。また、氏の多くの著書にも、親不知の岩壁を「日本アルプスの起点」あるいは「飛驒山脈の起点」と記述しています。

学問的には、山脈に「起点」や「終焉の地」があるとは思えません。が、小野健氏の梅海新道開削に懸けたロマンに鑑み、この親不知の絶壁を「スターティング・ポイント」として語りつないでいきたいと思っています。

（越後支部会員）

山梨の山の先駆者・平賀文男

北村武彦

茅ヶ岳は『日本百名山』の著者、深田久弥の終焉の地として全国的に知られているが、この茅ヶ岳山麓に甲州では類まれなる山の先駆者のいたことを知る人は少ない。

その名は平賀文男、号して月兔。明治28年1月20日、北巨摩郡穂坂村三ツ沢（現・韮崎市穂坂三ツ沢）の地主の子に生まれ、大正6年9月、早稲田大学政治経済学科を卒業、戦時末期、一時、東京に住んだほかは郷里にあつて生涯山を登り続けた。

平賀の最初の業績は、全県組織の山岳会結成の構想を持って、甲斐山岳会を発会させたことである。そもそも山梨県下で本格的な登山活動が始まるようになったのは、大正時代になってからである。それ以前は、県下の山々は専ら日本山岳会系の人々の独擅場であった。そうしたなか、大正元年に甲府市議会議員・田村九万治を中心に山谷跋涉会が結成され、続いて教育界の石塚末吉を中心に山梨山岳会が発足した。ところが、両方とも10年足らずで衰微して有名無実になってしまった。

こうした情勢のなか、平賀文男は甲府の酒造家・大沢伊三郎などの盟友を得て奔走し、山梨山岳会と山谷跋涉会を継承する形で、甲斐山岳会結成の運びとなった。

大正13年6月、甲斐山岳会は甲州財閥連枝の若尾金造を会長に据

寄附金および助成金などの受入報告 (8月31日まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、そのほか
安井 康夫 会員	20	山研運営資金寄附金
匿名希望	50	山研運営資金寄附金
羽根田 博正 会員	24	会務運営資金寄付金
匿名希望	1	山研運営資金寄付金
平田 大六 会員	10	高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金
青木 督平 会員	5	高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金
大門建設(株)	50	高頭仁兵衛翁寿像碑修復募金
仙台海外登山研究会	45	宮城支部運営資金寄附金
一般財団法人新潟県職員互助会	1,000	越後支部運営資金寄附金

(9月30日まで)

花王株式会社	900	生物保護、森林保全、古道調査に関連する寄附金
--------	-----	------------------------

えて発足し、登山の普及奨励をなすとともに、県下山岳の開発を使命として、山麓登山口の各団体を指導し、統率することとなった。甲斐山岳会における平賀の位置付けは平幹事に過ぎなかったが、実質はこの会のリードオフマンであった。会活動の実績は会誌に集約され、それが媒体となつて中央にも評価され、中央の情報ガイドバックされたものである。甲斐山岳会機関誌『山』は、発会翌年の大正14年5月に創刊されて、第3号まで平賀が編集した(第4号は野々垣が担当、それきりになった)。かくして平賀は、郷土の山を基

盤とする、地方山岳会としての名声を中央に博するまでの功績を挙げた。しかしながら、甲斐山岳会は間もなく幹部の間に世俗的な嫉視反目が見られるようになり、平賀はそこにもやもやした鬱屈感を感じた。そうなるも最初の意気込みが失われて山岳会運営には全く興味を持たなくなった。いや、その煩わしさを嫌悪するまでになり、山岳団体をバックとしての、また肩書き付きの登山とはぷつり縁を切った。

いったん話は変わるが、北巨摩郡下の主邑韮崎は、明治36年12月

の国鉄中央線・韮崎駅開通を機に、甲斐駒ヶ岳や鳳凰山の登山口へのアプローチが短くなったことで登山客が増えてきた。そんな事情があった、一般登山客の便益を図ることが町の発展につながるの考えが有力者において醸し出されるようになった。時あたかも大正13年6月に甲斐山岳会が発足し、隣村の穂坂村に住む甲斐山岳会幹事、平賀文男と同会幹事の野々垣邦富の慫慂(こよう)によつて白鳳会が結成された。ちなみに白鳳会の名称は、白峰と鳳凰の頭文字を採つて平賀が名付け親になったのである。

なお会報『白鳳』創刊号の巻頭は、当時、日本山岳会会長の小島烏水の論文「山岳会の仕事は創作に在る」であるが、これは平賀の懇請によるものである。

平賀の登山の足跡は県下各地に及んだが、とりわけ熱心だったのは南アルプスである。平賀が我が国の登山史に初めて載ったのは、大正14年3月の北岳の積雪期初登頂の先陣争いである。相手は京都の西堀榮三郎や桑原武夫たち三高パーティ。平賀パーティは4日遅れの登頂であるが、大樺沢からの新ルートによるものは初登頂であ

った(山崎安治『新稿日本登山史』典拠)。

それにつけても平賀はひたすら登り、よく書いた。著書単行本としては7点が刊行された。

処女出版は『日本南アルプスと甲斐の山旅』大正15年マウンテン書房刊。自費出版であるが大いに反響を呼び、昭和3年には静光社出版部から『南アルプス』として、南アルプスの部分に限って改定版が出され、さらに翌年、大手の博文館から3度版を変えて世に出た。以下、書名だけを挙げる。

『南アルプスと其溪谷』昭和6年朋文堂

『八ヶ岳火山群』同7年木犀社書院

『赤石溪谷』同8年隆章閣

『中央アルプスと御岳』同11年大村書店

ところで平賀の登山は、アルピニズムといったものではない。山の美しさ―景観だけでなく、精神面にも啓示するところのものを探究し、それが我が郷土に存在することを誇りとする態度をもつて、山と谷を跋涉したのである。そして、万人に賞美してほしいと願い、山の本を出版したのである。

昭和37年7月、平賀は読売新聞

主催の立山大集会で「山の恩人」として厚生大臣表彰を受賞したが、叙位叙勲を受けるよりこの方が平賀にはふさわしいだろう。

昭和39年4月19日、葦崎市立病

院の一室で脳軟化症のため69年3ヶ月の生涯を閉じられた。今は生地の小高い丘陵にある慈源院の墓地に永眠されている。

(永年会員)

活動報告

日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です。

山の自然学研究会

上高地インタープリターの活動について

山の自然学研究会(略称・山研)では、上高地において「上高地インタープリター」の活動を行なってきた。8月の前半に実施して、主な活動は「ガイドウォーク」と「ミニトーク」である。

ガイドウォークは、河童橋から明神までを、自然解説を行ないながらのウォークである。参加者は西糸屋山荘前で観光客を募集するが、実際には前日の夜に行なっているホテルでのミニトークの際に案内したお客様が大半である。参



ガイドウォークで解説するインタープリター

加者数は数名より7、8名くらいであるが、以前はもっと多かったようだ。

「河童橋をスタートし、梓川沿い

に左岸を遡る。明神岳や穂高連峰を見ながら地形地質の話や上高地の地史などに触れながら話を進める。白樺荘横の川岸にフィールスコープをセットして奥穂高岳を見ると、山頂にいる人の姿が手に取るように見える。通行人に自由に見てもらおうと大変驚かれ、興味を持って見てくれた。

上高地は植物も豊富である。身の周りに咲いている野草や木々について、名前や特徴、自然保護などについて説明すると、参加者は興味深く聞いてくれて、改めて上高地の自然のすばらしさを理解してくれている。明神までは2時間ほどの予定だが、参加者との交流も深まり、つい時間は延びてしまう。ときには、後日に感謝の手紙をいただくこともある。

もう一つの活動のミニトークは、温泉ホテル、アルペンホテル、西糸屋山荘の3つのホテルの協力をいただいて、食後のひとときを使って、宿泊客に対して自然解説を行なっている。時間はおよそ1時間、参加者は15〜30人ほどである。

自然解説のテーマは担当者がそれぞれ決める。「北アルプスの地形と上高地の木と花」「上高地に



食後のひとときを使っのミニトーク

ようこそ・ライチョウ便り」「上高地の花々」「穂高神社と上高地の花」「黒部下廊下縦走」など、多様な内容が取り上げられている。参加者は行楽気分得上高地に来て、話をよく聞いてくれ、終了後も質問攻めに遭うことがあり、満足して帰っていかれる。

上高地インタープリターの活動は、当会が創立したところから行なわれていて、当会の最重要活動という位置付けである。今年で25年ほどになるが、以前は「子どもスケッチ会」や「ライチョウ作り」なども行なってきた。創立のころは定年退職後の元気な会員でスタートしたが、25年も経つと会員も高齢化し、若い年代の会員が後に続か

ず、会が老齢化してきていて、元
気な会のこの活動を維持するの
が困難な状況になってきている。

以前は15日間実施していた上高地
インタープリターも、今年は5日
間に減らさざるを得なかった。そ
れでも担当者を揃えるのが難しく、
新たな方策を立てなければならな
かった。

その一つとして、会報「山」に、イ
ンタープリターへの参加募集を掲
載していただいた。幸い応募者は

少なかったものの参加の申し出を
いただいた。また、他団体への協
力をお願いし、協議を進めて協力
者を確保でき、計画を完成するこ
とができた。他団体との連携協力

「山」などを通しての広報活動の手
段は有効な方法であるということ
を学んだ。この学びから今後への
見通しが立てられたという思いで
ある。

（山の自然学研究会代表 源原重
行）

支部

だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

宮城支部

翁山（翁峠）登山

翁山（1075m）は宮城・山形
県境の山で山形県側では翁山、宮
城県側では翁峠と呼んでいたが、
調べてみると国土地理院は201
2年11月12日に山名を翁山と変更
したそう。宮城県に住んでいる
者としては、昔から慣れ親しんで

いた山名が変わったことは大変残
念な気がする。

8月7日（土）、曇り。仙台からハ
リマ小屋登山口まで行程は3時間
くらいと思っていたが、予定より
少し早く到着する。出発準備をし
て9時15分スタート、10時40分
には山頂直下の祠に到着。朝が早か
ったこともあって昼食をとる。
ゆっくり休憩したのち、11時30

分出発。翁山山頂を経てからの、途
中の稜線歩きは快適で、登山道脇
はヤマユリのオンパレード（先週
あたりが最盛期）だった。花を楽し
みながら鞍部まで下り、さらに吹
越山とハリマ小屋分岐から急坂を
下山。不老長寿の泉でブナ林から
流れ出る冷たい湧水で顔を洗った
りしながら休憩し、ハリマ小屋到
着は13時10分だった。

この山は40年ほど前に、会員で
あった宮城の故・後藤邦慶さんか
ら「太田さん、翁峠を案内するから
ぜひいらつしやい」と声を掛けて
いただいていた。気になっていた
が行く機会がなかったことを思い
出し、数年前に宮城側から登った。



翁山山頂での記念撮影

しかし、林道が通行止めになっ
ているほか、道路状態も悪く小型の
四輪駆動車以外は走行不能だった。

その後、山形側の本コースを登
山したが、その際は不老長寿の泉
にはもつと水量があつたような気
がしていたのだが、少ないのに驚
いた。人間の記憶など当てになら
ないものと実感した。宮城側から
の登山者は前述のとおり状況で
少ないと思われるが。山形側から
は逆に多いようで、低山で盛夏に
もかわらず何組かのグループに
出会った。今回、休憩も含めゆつ
くり歩いて4時間弱。里山を少し
延長したような、手軽に楽しめる
感じだった。季節を変えてまた登
ってみたい一峰だった。参加
者10名。

（太田正）



ヤマユリが美しい翁山の稜線

信濃支部

第75回ウエストン祭を開催

第75回ウエストン祭は、6月6日に上高地・ウエストン広場で開催された。今年春には終息が期待された新型コロナウイルス感染症は収まる気配が見られず、昨年と続き今年も関係者のみの縮小開催となった。

参加者は長野県内在住の信濃支部会員と、地元上高地と松本市関係者とし、日本山岳会会員でも緊急事態宣言やまん延防止対策の対象地域や県境を越えての来場はご遠慮いただいた。また、体温や健康に異常のないことを確認した上で、マスク着用、ソーシャル・ディスタンスを確保して開催した。上高地でのウエストン祭本部は設けず、恒例となっている前日の打合せ会、当日の午餐会は中止とした。概要は以下のとおり。

【関係先への挨拶】6月4日(金)

ウエストン祭では、地元町会公民館、松本市、環境省や長野県などの関係省庁、例年合唱の披露をしていただく安曇小学校、上高地の各旅館、山小屋友好会、自然公園財団、交通機関、上高地の各観光施設

図書受入報告(2021年8月～9月)

著 者	書 名	頁/サイズ	発 行 者	発行年	寄贈/購入別
山本紀夫	高地文明 :「もう一つの四大文明」の発見 (中公新書 No.2647)	325p/18cm	中央公論新社	2021	著者寄贈
大町山岳博物館(編)	北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたり	97p/30cm	大町山岳博物館	2021	発行者寄贈
梨子田満	上高地・穂高嶺	84p/25cm	梨子田満(私家版)	2021	著者寄贈
久保田賢次(編)	これでいいのか登山道 :よりよい「山の道」をめざして	154p/30cm	登山道法研究会	2021	発行者寄贈
権藤司・高山陽山	そして風の中へ	281p/22cm	言葉の森へ 道程社	2021	著者寄贈
大矢康裕/吉野純(監修)	山岳気象遭難の真実 (ヤマケイ新書 No.YS060)	254p/18cm	山と溪谷社	2021	出版社寄贈
広渡敬雄	俳句で巡る日本の樹木50選	112p/21cm	本阿弥書店	2021	著者寄贈
神崎忠男・田上和儀(編)	はっちゅえい :日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト 創立30周年記念誌	132p/21cm	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	2021	発行者寄贈
石川直樹	シェルパの友だちに会いに行く :エベレスト街道日誌2021	168p/19cm	青土社	2021	出版社寄贈
別府二豊山岳会(編)	別府二豊山岳会百年史	458p/26cm	別府二豊山岳会事務局	2021	発行者寄贈
長野県立美術館(編)	森と水と生きる :長野県立美術館 グランドオープン記念	222p/26cm	長野県立美術館	2021	発行者寄贈
信濃毎日新聞社出版部(編)	寛保2年の千曲川大洪水 「戌の満水」を歩く (増補改訂版)	224p/26cm	信濃毎日新聞社	2021	出版社寄贈
関西学院大山岳部記念誌部会(編)	エーデルワイス 18号 :関西学院大山岳部創部100周年記念誌	226p/30cm	関西学院大山岳会	2021	発行者寄贈
Jenny Paterson (ed.)	The Journal of the Mountain Club of South Africa 2020 (No.123)	166p/23cm	The Mountain Club of South Africa	2021	発行者寄贈
Dougald MacDonald (ed.)	The American Alpine Journal 2021 (Vol.63 Iss.95)	224p/23cm	The American Alpine Club	2021	発行者寄贈



尾崎喜八の詩を朗読する本間香菜子さん

等々、多くの皆さんのご協力をいただいている。そうした先に記念品を配り、小規模開催になったこと、また来年からもよろしく、と挨拶をして回った。

【徳本峠記念山行】6月5日(土)

毎年、島々谷から徳本峠を越え上高地に入る記念山行を行なっているが、豪雨災害などで島々谷側の林道、登山道が寸断され、通行できなくなっている。そこで、せめて明神側から徳本峠の往復を計画したが、5月26日(水)、偵察に入った信濃支部会員・東、横田パティーの報告により、明神側にも登山道の崩落があり、危険な状態とすることで、やむなく中止とした。

【碑前祭】6月6日(日) 午前10時

(1)開会 (司会・信濃支部・角田啓蔵)

(2)主催者挨拶 (信濃支部長・米倉逸生)

(3)献花 (信濃支部・渡辺庸子、松本潔)

(4)黙祷

(5)古野淳・日本山岳会会長メッセーじ (代読)

(6)臥雲義尚・松本市長メッセーじ (代読)

(7)記念山行中止の報告・徳本峠の現状について (信濃支部副支部長・東英樹)

(8)尾崎喜八の詩の朗読 (フリーアナウンサー・本間香菜子さん)

ウェストン祭では毎年、支部の女性会員により、詩人・尾崎喜八 (信濃支部第2代支部長) の詩の朗読をしているが、来年で尾崎の生誕130年を迎えることから、前倒しで少し時間をとり、また、プロの朗読者によって詩とエッセイを朗読し、ウェストン師に捧げた。

・エッセイ「小梨の花咲く上高地」

・『尾崎喜八詩文集』⑩の散文「山は離れど」より抜粋。

・詩「山が待っている」(第23回ウェストン祭で詠んだ詩)。

・詩「山が待っている」(第23回ウェストン祭で詠んだ詩)。

・詩「山が待っている」(第23回ウェストン祭で詠んだ詩)。

・詩「山が待っている」(第23回ウェストン祭で詠んだ詩)。



記念品の手拭い

(9)閉会

〈参加者〉日本山岳会信濃支部員

松本市関係者、上高地関係者、一般参加者など約30名、報道3社。

【記念品頒布】手拭いとブローチのセット。

記念品は、ウェストン祭にご協力いただいている関係者の皆さんにお配りしていますが、一部を一般の皆様にも頒布し、ご協力いただいています。開催の見通しの立たない中での発注となるため、縮

力いただいている関係者の皆さんにお配りしていますが、一部を一般の皆様にも頒布し、ご協力いただいています。開催の見通しの立たない中での発注となるため、縮

会

務

報

告

令和3年度第5回(9月度)理事会

議事録

日時 令和3年9月15日(水)19時

場所 集会所およびオンライン

(Zoom)

【出席者】古野会長、坂井・橋本各

小開催となった場合、多くの在庫が発生してしまいます。

頒布方法は、日本山岳会HPで紹介していますが、多くの会員のご協力をお願いします。手拭いデザイン(型染め)は徳本峠からの穂高連峰、ブローチ(手彫り)は小梨の花です。詳細は日本山岳会HPのトップページ《概要》本部・支部情報から《信濃支部インフォメーション》に進んでください。もしくは、インターネット検索で「第75回ウェストン祭記念品」で、また、「Twitter & Facebook」でも紹介しています。

(信濃支部長・米倉逸生)

副会長、南久松常務理事、松

原・松田・清水・飯田・平

川・久保田・川瀬・長島各

理事、黒川・佐野各監事

【欠席者】山本副会長、柏・萩原各

常務理事

【オプザバー】 節田会報編集人

【審議事項】

1・晩餐会ウィークについて協議した。(10月に確定) (久保田)

2・東京区部の新支部構想の件について協議した。(継続審議)。(坂井)

3・助成金受入の承認について承認した。(賛成12名、反対0名) (南久松)

4・監査法人との財務に関しての指導・助言業務契約の継続に関して承認した。(賛成12名、反対0名) (南久松)

【報告事項】

1・8件の寄附金の受入報告があった。(南久松)

2・正会員15名、準会員13名の入会を承認した旨、報告があった。(古野)

3・新入会員オリエンテーション(9月4日実施)の終了報告があった。(久保田)

4・支部連絡会議(9月25日)の内容について説明があった。(坂井)

5・花王ヘルシア・キャンペーンが7月31日をもって終了したとの報告があった。(古野)

6・エベレスト登頂50周年記念事業について報告があった。(古野)

7・会が保有する公文書(歴史的なもの、事務的なものなど)の保管について説明があった。今後のクラウド保管に向け準備。(古野)

8・公益法人運営委員会の委員長交代の報告があった。新委員長は小林政志。(佐野)

9・上高地山岳研究所利用状況(2021年8月分集計)について報告があった。(川瀬)

10・遭難対策運営要領の改正(事故発生時の連絡電話番号見直し)について説明があった。(川瀬)

11・登山計画書提出状況(2017年12月〜2021年8月)について説明があった。(川瀬)

12・山行委員会の晩餐会山行の代替プランについて説明があった。(長島)

13・信州大学学士山岳会からの名義後援申請(学生クライマーズミートイニング)について報告があった。(古野)

14・植村冒険館への映像(JACエベレスト登頂時に植村直己が撮影した画像)の使用許可の承諾について報告があった。(清水)

15・山梨県からの新型コロナ感染

拡大防止に関する協力要請について説明があった。(古野)
16・「山」9月号の発行について報告があった。(節田)

ルーム日誌 9月

2日 総務委員会
4日 総務委員会(新入会員オリエンテーション)
6日 山岳編集委員会
14日 財務委員会
21日 会報編集委員会
9月来室者 31名

会員異動

INFORMATION

インフォメーション

◆年次晩餐会記念山行

陣馬山に集まろう

山行委員会

陣馬山(855m)に登りませんか。富士山や南アルプスの眺望がすばらしい山です。ルートや時間

物故

藤木高嶺(3915) 21・9・29
渡邊玉枝(11214) 21・8・2
土田常次(13665) 21・8・6
成海 修(14797) 21・9・22
福井修一(15992) 21・9・5

退会

澤村眞治(6327) 石川
宮下真史(8408)
廣瀬 正(8749) 岐阜
松本久志(14118)
池谷和明(14820) 静岡
小澤大輔(15810) 東海
天田義乃利(16108) 群馬
田中 浩(16179) 東海

はあなたのフリープランで、12時から14時のコアタイムに山頂に集合します。自由参加です。事前の参加申し込みは必要ありません。
コアタイムに山頂で山行委員が山岳会の旗を持って立っています。

特別なイベントはありませんので
自由に参加・解散してください。
日時 12月5日(日) 雨天中止

主なルートです。各自詳細
に計画してください。①J
R中央線・高尾駅北口から
バス陣馬高原下車。徒歩
1時間30分 ②JR中央
線・藤野駅からバス和田下
車。徒歩1時間30分 ③京
王線・高尾山口から徒歩6
時間 ④JR中央線・高尾
駅北口からバス小仏下車。
徒歩3時間30分。

問合せ ☒ sanko@jac.or.jp 携帯

080-32558-3250

(征矢)

昼食・休憩は各自適宜とつてく
ださい。山頂には茶店があります。
登山計画書は各自、各グループで
作成提出してください。

◆妙高スキー懇親会のお知らせ

令和4年1月のスキー懇親会は
山行委員会

「会員優待サービス」変更のお知
らせ

＊【北アルプス】常念小屋／先

方都合により削除

新赤倉温泉で実施します。希望者
には、現地指導員によるツアー講
習をいたします。

日程 1月24日(月)～27日(木)

費用 3万3000円(通信費、保

険料、懇親会費用等含む)

宿泊 新赤倉温泉・ユアーズイン

定員 15名

現地集合・現地解散

申込み 12月20日までに、会員番

号、住所、氏名、電話など

を明記し、郵送、Faxま

たはメールで高橋聡まで。

〒102-0072 東京都

千代田区飯田橋2-12-10

FAX 03-3222-0908・

☒ sanko@jac.or.jp

参加申込み者には詳細案内をお
送りします。

◆第28回山岳写真展「心に映る 山々」

アルパインフォトクラブ

毎年1回会員の写真を展示する
写真展を開催していますが、昨年

はコロナ禍のため中止となりました。

2年ぶりの開催となりますが、

会員が撮影した国内外の山岳写真

40点を全紙で展示します。

会期 12月2日(木)～8日(木) (10時

～18時、土日11時から、最
終日15時まで)

会場 東京都新宿区四谷 日本写

真会館「ポートレートギヤ

ラリー」(JR四ツ谷駅・四

ツ谷口徒歩3分)

URL: <http://www.sha-bunkyo.or.jp>

問合せ 道健一

☒ michiken@h3.dion.ne.jp

川嶋新太郎 携帯090-

9369-2345

◆講演会のお知らせ

緑爽会

緑爽会では、以下のとおり講演

会を開催します。住所・電話番号明

記の上、左記へお申込みください

(事前申込み制)。

演題 深田久弥没後50年「その人

となりと魅力」

講師 親交のあった横山厚夫氏と、

平ヶ岳などを案内した桜井

昭吉氏

日時 12月4日(土)14時～

会場 JR武蔵境駅北口スイング

ホール10階スカイルーム1

定員 40名

申込先 富澤克禮

TEL・FAX 042-324-405

☒ tomizawa-atsumori@nifty.com

◆編集後記◆

●連載記事の最新情報取材のため
先月下旬、会報編集の相棒、原邦
三会員と伊豆諸島に行ってきました。
大島・三原山と利島・宮塚山
は順調に歩けたのですが、台風16
号の影響で海にうねりが出始め、
次の神津島へは渡れませんでした。
予約した民宿から電話があり「こ
っちへ来るより、早く利島を脱出
した方がいいよ」とのこと。

●すわ一大事！客船もジェット
foilも欠航で、頼りはヘリだ
け。朝一番でヘリポートに並んだ
ものの、「1席ならあります」との
つれない返事。翌日の予約をして、
すぐ「こと」民宿へ逆戻り。29日、な
んとかヘリで大島に脱出、ジェッ
トに乗り継いで帰京した次第です。
危うく「島流し」になるところだっ
たお粗末な一席。(節田重節)

日本山岳会会報 山 917号

2021年(令和3年)10月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社